

## ワクチン情報文書

# 遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチン： 知っておくべきこと

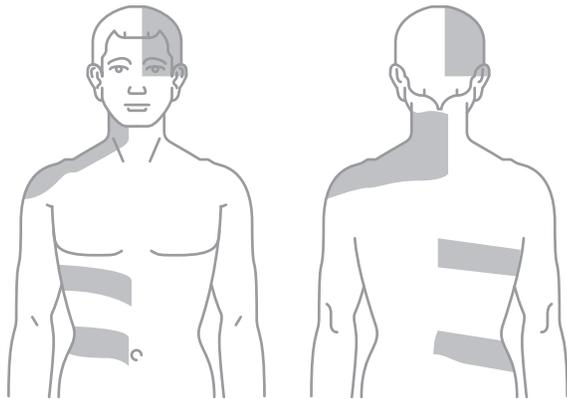
Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See [www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。  
[www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis) をご覧ください。

## 1. ワクチン接種を受ける理由は？

遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンは帯状疱疹を予防できます。

帯状疱疹(帯状ヘルペスとも呼ばれることがあります)は痛みを伴う皮膚発疹で、水疱ができることもあります。発疹に加えて、発熱、頭痛、悪寒、または胃の不調を引き起こす可能性があります。非常にまれですが、帯状疱疹の感染により肺炎、難聴、失明、脳炎を引き起こしたり、死亡に至る場合があります。



帯状疱疹のリスクは年齢とともに増加します。帯状疱疹の最も一般的な合併症は、帯状疱疹後神経痛(Postherpetic Neuralgia: PHN)と呼ばれる長期的な神経痛です。PHNは帯状疱疹の発疹が起こった部位に発生し、発疹が消失してから数カ月から数年続くことがあります。PHNによる痛みはひどく、この痛みにより衰弱してしまう人もいます。

PHNのリスクは年齢とともに増加します。帯状疱疹を患う高齢者は、若い人よりもPHNを発症する可能性が高く、より長く持続し、痛みもより重度になります。

免疫力が低下している人は、帯状疱疹や合併症を発症するリスクも高くなります。

帯状疱疹は水痘帯状疱疹ウイルスによって起こります。これは水疱瘡(みずぼうそう)を起こすウイルスと同じものです。水疱瘡にかかると、このウイルスはあなたの体内に住み続け、後で帯状疱疹を引き起こす場合があります。帯状疱疹自体は人から人へうつることはありませんが、帯状疱疹の原因となるウイルスが人から人へうつり、水痘にかかったことがない人や水痘ワクチンを受けたことがない人が水痘を発症することがあります。

## 2. 遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチン

遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンは帯状疱疹の予防効果の高いワクチンです。帯状疱疹の予防となる遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンは、PHNおよびその他の合併症の予防にもなります。

遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンの接種は以下の人に推奨されます。

- 50歳以上の成人
- 病気や治療のために免疫力が低下している19歳以上の成人

帯状疱疹ワクチンは、2回の接種で完了します。ほとんどの人は、2回目の接種を1回目の接種の2~6か月後に受ける必要があります。一部の免疫力が低下している人、または今後免疫力が低下すると思われる人は、2回目の接種を1回目の接種の1~2か月後に受けることができます。担当の医療従事者にご相談ください。

過去に帯状疱疹を患ったことがある人や水痘ワクチンを接種したことがある人は、遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンの接種が推奨されます。このワクチンは、別の種類の帯状疱疹ワクチン(生ワクチン)をすでに接種された方にも推奨されます。遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンには、生きたウイルスは含まれていません。

遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。



U.S. Department of  
Health and Human Services  
Centers for Disease  
Control and Prevention

### 3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- ・過去に遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、または重度の生命を脅かすアレルギーがある
- ・現在帯状疱疹の症状が出ている
- ・妊娠している

場合によっては、担当の医療従事者が遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンの接種を次の来院まで延期するように判断する場合があります。

風邪などの軽い病気にかかっている場合でも、ワクチン接種を受けることができます。病気が中程度または重度の場合は、回復してから遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンを接種するほうがよいでしょう。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

### 4. ワクチン反応のリスク

- ・遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンの接種後、軽度または中程度の腕の痛みが、多くの方にみられます。注射した部位の赤みや腫れもみられることがあります。
- ・また、遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンの接種後に、疲労感を感じたり、筋肉痛、頭痛、悪寒、発熱、胃痛、吐き気が出ることもあります。

ワクチン接種を受けた人は、これらの副反応により、一時的に通常の活動ができなくなることがあります。通常、症状は約2～3日で自然になくなります。初回の接種でこれらの反応の一つが起こった方でも、2回目の遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチンの接種を受けていただく必要があります。

遺伝子組み換え帯状疱疹ワクチン接種後の副反応として、非常にまれですが、深刻な神経系障害であるギラン・バレー症候群 (Guillain-Barré Syndrome: GBS) が報告されています。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

### 5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)があった場合は、9-1-1に電話し、最寄りの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System (ワクチン有害事象報告システム: VAERS) に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトにはアクセスいただくか [www.vaers.hhs.gov](http://www.vaers.hhs.gov)、1-800-822-7967までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

### 6. 詳しい情報を知るには？

- ・担当の医療従事者にお尋ねください。
- ・お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ・ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration (米国食品医薬品局: FDA) のウェブサイト [www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines](http://www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines) をご覧ください。
- ・Centers for Disease Control and Prevention (疾病管理予防センター: CDC) にお問い合わせください。
  - 電話 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) または
  - CDCのウェブサイト [www.cdc.gov/vaccines](http://www.cdc.gov/vaccines) をご覧ください。

Japanese translation provided by Immunize.org

Vaccine Information Statement

Recombinant Zoster Vaccine

2/04/2022

OFFICE  
USE  
ONLY

